

【NPO通信】

インドネシア教育振興会(3) スラムに図書館建設

2010年4月20日

インドネシアで教育都市と呼ばれるバンドンでも、ごみ問題や貧困問題がある。米国に端を発した不況で、さらに苦境に立たされた現地のスラムの女性や子どもの居場所をつくろうと、インドネシア教育振興会は二〇〇九年十二月に図書館を完成させた。

バンドンはインドネシア第三の都市で、教育の都市と呼ばれる半面、ごみや貧困問題が山積みです。当会では当初より、このバンドンのスラムの小学校と交流を重ね、支援をしています。具体的には、スタディー・ツアーで現地を訪問し、小学生との交流を通して図書の寄贈や夢をはぐくむ活動をしています。

インドネシアで初等教育の重要性が注目され始めた直後の二〇〇八年、リーマン・ショックが起きました。米国から遠く離れたインドネシアのスラム住民も直撃を受け、困窮する貧困層がさらに拡大・深刻化しました。

特に大きな影響を受けたのは、スラムの小学生や女性でした。単純作業や物売りで生活の糧を得ていた一家の主人は失職し、狭い家に閉じこもりました。子どもや女性は居場所を失うばかりか、学費のかかる小学校にも通えなくなったのです。

当会は、居場所のないスラムの子どもや女性に、ノンフォーマル教育の場として機能する図書館の建設を計画し、〇九年度国際ボランティア貯金の寄付金百七十五万八千円の配分決定を受け、同年十二月に図書館を完成させました。

図書館は、自助努力を最大限引き出すために、現地ではまだなじみの薄い児童会を組織し、スラムの子どもと女性らが運営しています。教育を通して自分たちで自分を守ることを伝え、居場所となる大切な図書館に愛着を持たせるのもこのプロジェクトの狙いです。

まだ蔵書の少ない図書館を支えてくれるのが、五百円玉一つでできる「ワンコイン・プロジェクト」です。五百円の寄付で図書を購入し、それにメッセージを添えていただきます。

メッセージを図書にはることで、目に見える支援となっています。「一人でも多くの子どもたちに教育の機会を」をスローガンに掲げたこのプロジェクトにご賛同いただければ幸いです。

このような支援の機会を下された国際ボランティア貯金のお客さま、そしてワンコイン・プロジェクトにご参加くださった皆さまに感謝申し上げます。

プロジェクトの詳細は当会ホームページで閲覧できます。

(インドネシア教育振興会代表・窪木靖信)



建設した図書館に出入りする子どものサンダル＝インドネシア・バンドンで

PR情報

[銀座のいいものだけを詰め込みました【銀座せっけん】](#)
[まさかの価格破壊！40歳\(男性\)月額1,345円の死亡保険の真相。](#)